



部会の窓 第4回民俗部会研究会を開催しました

1月14日(金)第4回民俗部会研究会を開催しました。今回は、各委員から調査の進捗状況やその成果、調査の過程で見えてきた課題などが発表され、今後の調査対象や方法について意見交換が行われました。

翌15日(土)は、遠野ふるさと村で行われた小正月行事の調査を行いました。遠野ふるさと村では、「まぶりっと*」と呼ばれるスタッフが遠野の年中行事や手仕事を伝承しています。この日はお作立(みずき団子)、成り木、からすよばり、お田植、なまこひきなどが行われ、中でも現在はなかなか見られないなまこひきに注目が集まっていました。また調査に参加した委員らも、まぶりっとの方々に聞き取りをしながら、家庭ではあまり見られなくなった小正月行事の様子を熱心に書き留めたり、写真に収めたりしていました。



▲なまこひきはモグラ除けのまじない。「なまこ殿のお通りだ、もぐら殿のお国替え」と言いながら、なまこを模したわらじを束ねたものを引いて歩く。

用語解説

*まぶる…守る、見守る、見張る、看護するなどの意味を持つ方言。まぶりっとは「まぶる」と「~っと(~する人、~の人)」を組み合わせた言葉。

部会の窓 第4回近現代部会を開催しました



▲会議の様子

1月22日(土)第4回近現代部会を開催しました。今回はコロナ禍や天候の影響で、委員5名のうち3名がリモート出席での開催となりました。

現在近現代部会では、各委員が令和7年度刊行予定の「資料編」に掲載すべき資料を資料カードにまとめる作業を行っており、会議では資料カードの一覧をもとに編目構成や複数の分野にまたがる項目のすみわけなどについて協議を行いました。また遠野らしい特色ある資料について、昭和11~15年頃の遠野教育に関する資料が充実していること、遠野南部家の明治以降の動きを鍋倉神社の創設や土族籍回復運動*などと絡めて取り上げたいこと、千葉家資料の中の日記資料をまとめて取り上げたいこと、などの意見が出されました。

用語解説

*土族籍回復運動…

遠野南部家の旧家臣有志が行った運動。

明治維新後、遠野南部家の旧家臣は土族籍に編入されなかったが、明治29年に遠野南部家の祖先南部師行が南朝への忠孝から正五位を追贈され、また明治30年7月1日に子孫の南部行義に男爵位が授けられたことに伴い、岩手県知事へ土族復籍の請願書を提出し同年12月に認められた。

市史編さん室では、遠野の歴史や皆さんの生活に関わる資料を調査しています。

古文書や写真、家計簿、日記等の調査にご協力いただける方は、ぜひ市史編さん室までご連絡ください。



暦

とおの
さいじき

小
正
月

こ
し
よ
う
が
つ



▲お田植 (伝承園)

今年も市内各所で小正月行事が行われました。元日を中心とする正月を「大正月」というのに対して「小正月」といい、他にも女の正月、モチ（望）の正月などの呼称があります。

日本では明治5年（1872）まで太陰太陽暦（月の満ち欠けを基準に、太陽の動きも参考にして閏月を入れる暦）を採用しており、その暦では毎月15日は満月（望月）でした。暦とそれに伴う年中行事が浸透する以前は、この満月をめでたいものととらえ、その年の初めての満月にさまざまな新年の行事が行われていた名残りが小正月であると考えられています。暦の普及に伴って年頭行事が月初めに移って大正月となり、ふたつの正月が現在も続いているのです。大正月は年神を迎えて新年を祝うのに対し、小正月では農耕に関する行事が色濃く伝えられています。

かつては農村部を中心に各家庭で小正月行事が行われていましたが、その多くが現在は失われつつあります。現在家庭で行われるのは希で、主に地域行事として行われ、世代間交流の場となっています。中でもみずき団子は、作業が比較的容易で小さな子供から高齢者まで参加できることや、完成形が華やかであることから現代の小正月行事の代表格といえるでしょう。



▲（左）稲穂を模したイナバセ／（中央）みずきに飾られたおもちゃのお金／（右）豆木、粟穂、繭団子



▲（左から）餅で白と杵を模したもの／子供たちが成形したみずき団子／成り木／小正月の子供の遊び「鉤ひっぱり」

編集・発行 遠野市民センター市史編さん室

〒028-0515 岩手県遠野市東館町3番9号（遠野市立図書館・博物館内）

TEL:0198-62-2340 FAX:0198-62-5758